

麻疹の発生状況



国立感染症研究所・麻疹対策技術支援チーム



発表の内容

- 麻しんの発生動向
 - － 週別報告数
 - － 都道府県別百万対報告数
 - － 年齢群別接種歴別報告数
 - － 病型別報告数、報告数割合
 - － 届出項目の変更に関する報告
- 風しんの発生動向
- まとめと今後の課題



麻しん発生動向

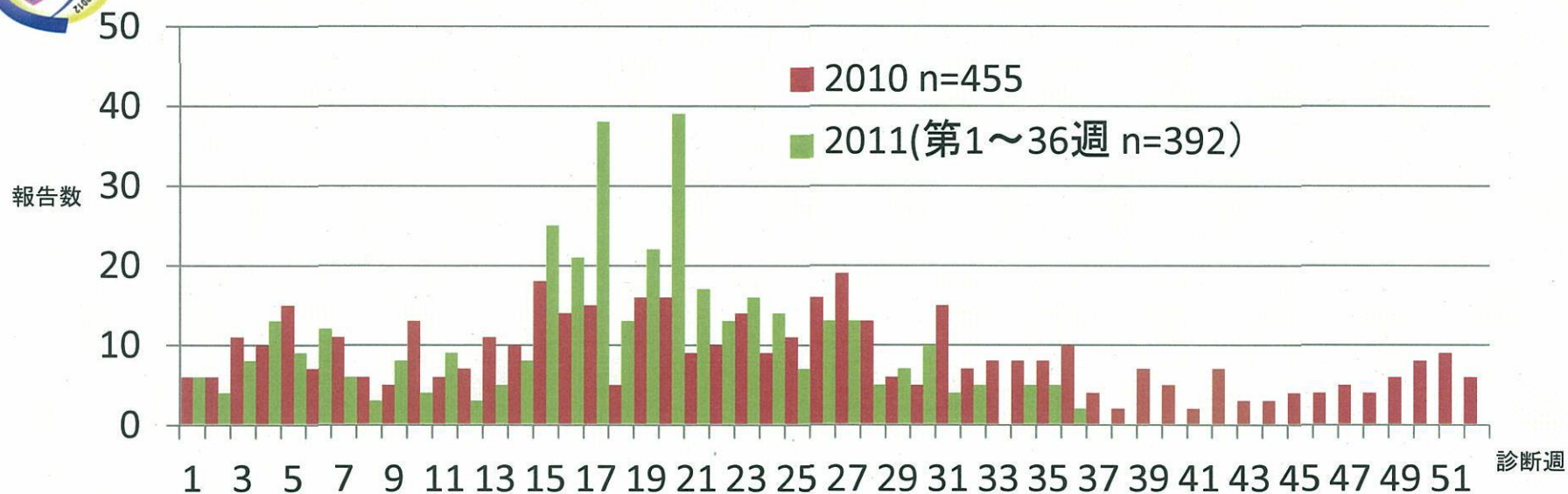


週別麻疹報告数の推移 2008～2011

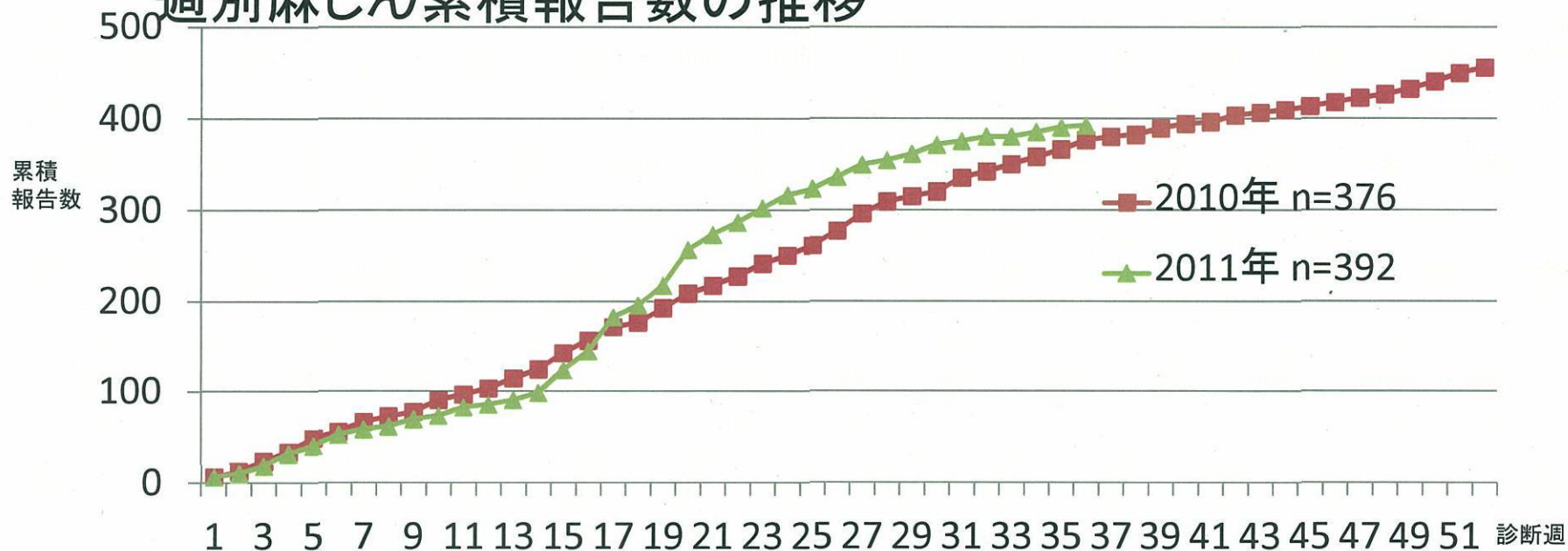




2010年～2011年週別麻しん報告数の推移

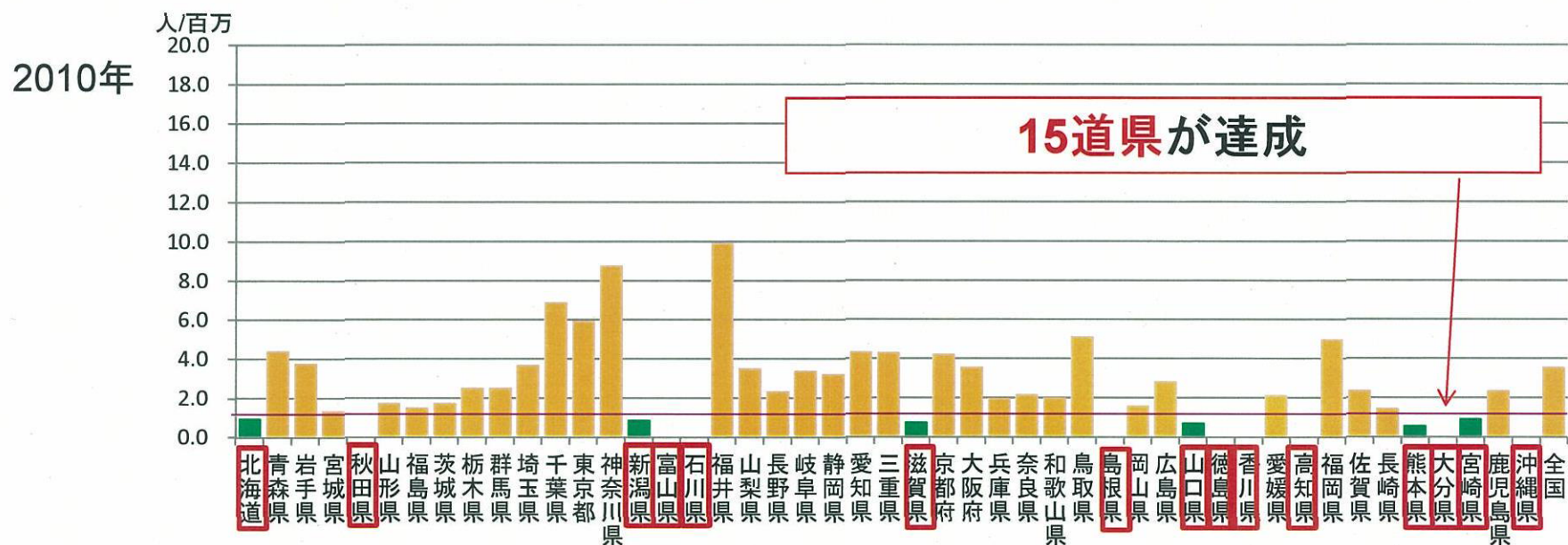
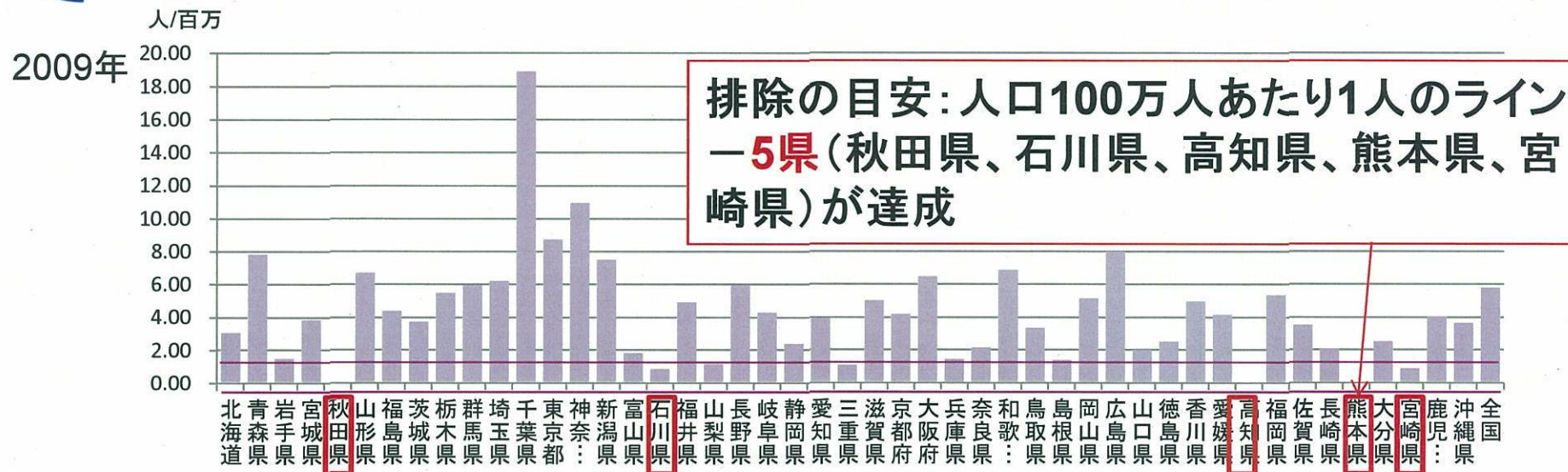


週別麻しん累積報告数の推移





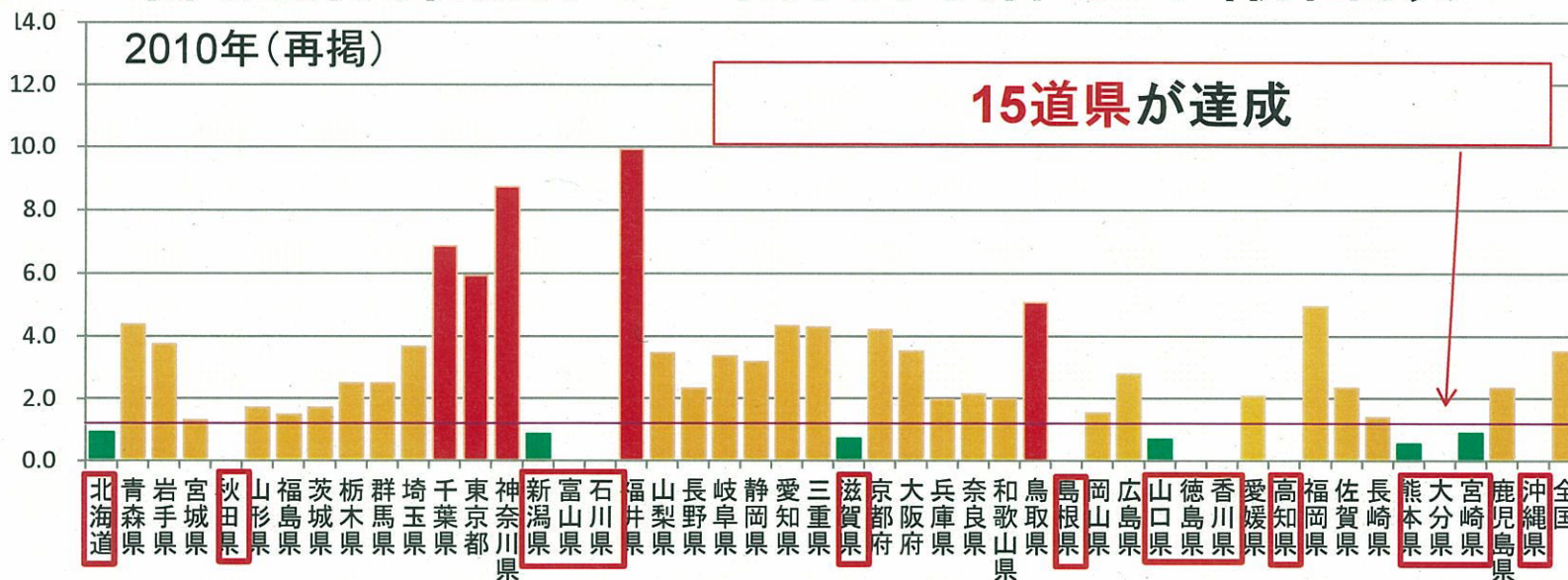
都道府県別人口百万対麻しん報告数





人/百万

都道府県別人口百万対麻疹報告数



人/百万

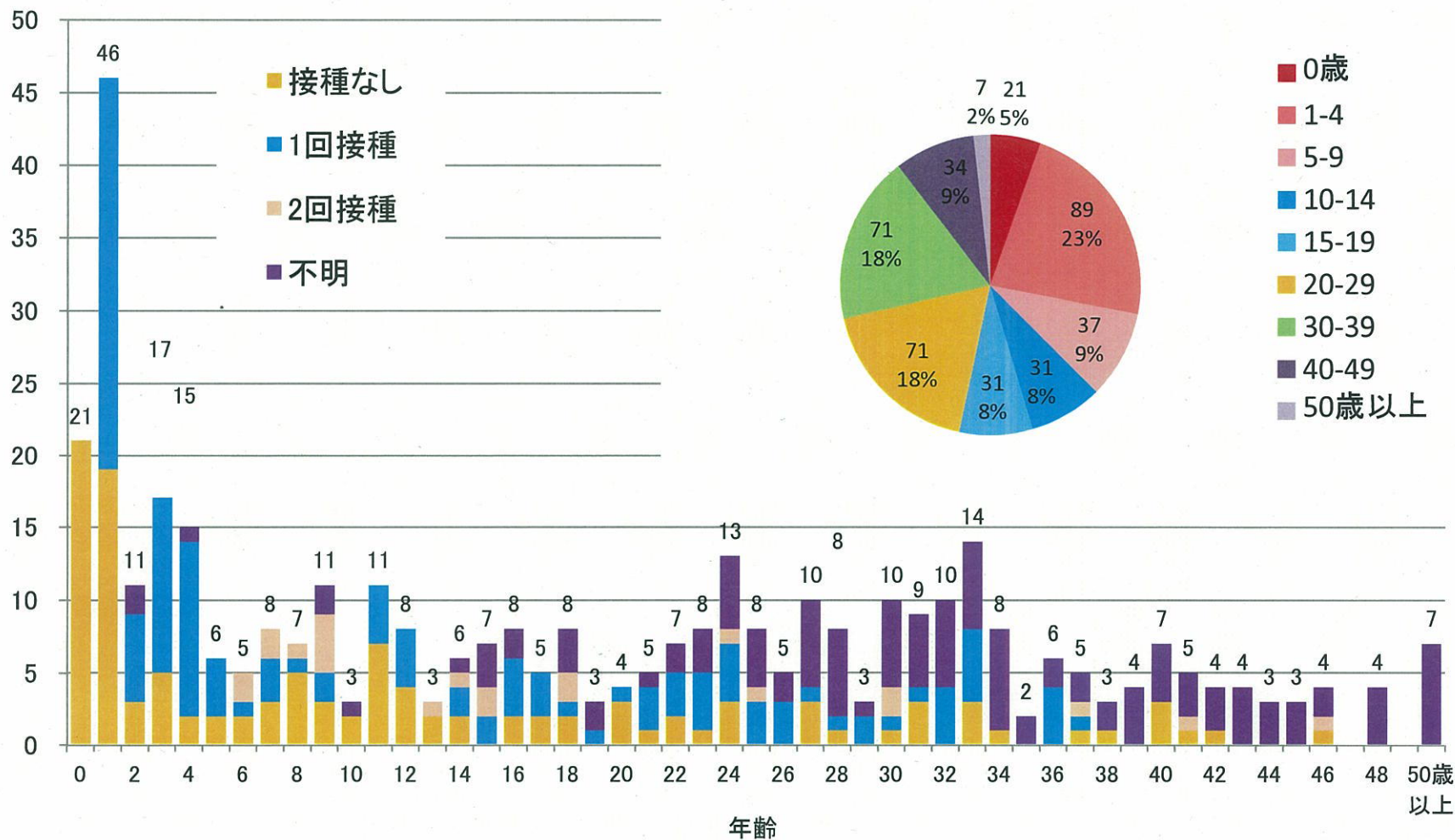


感染症発生動向調査 2011 年 9 月 14 日
現在



年齢別接種歴別麻疹累積報告数 2011年第1週～36週 (n=392)

報告数

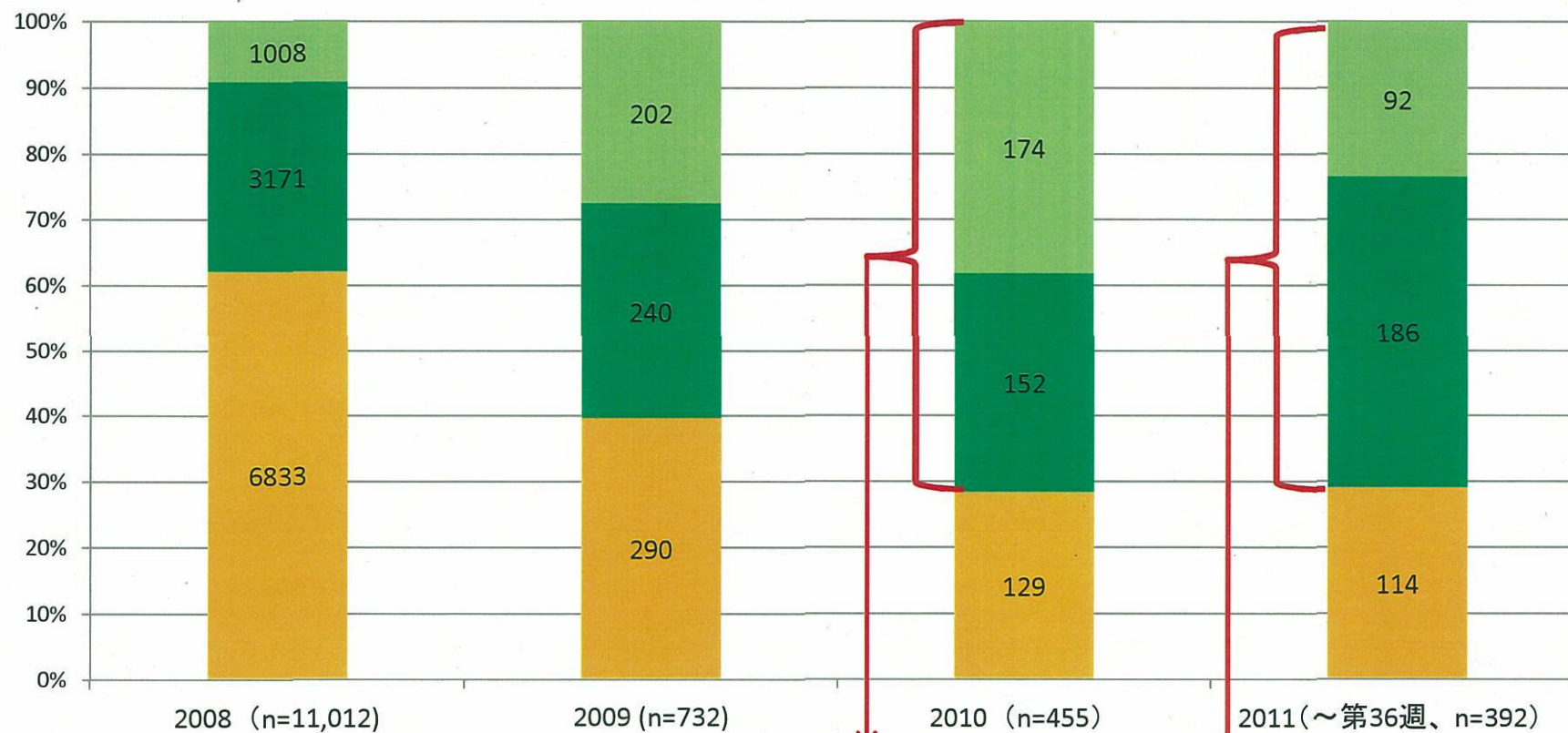


感染症発生動向調査 9 月 14 日現在



病型別麻疹報告数 検査診断例の割合の推移

■ 臨床診断例 ■ 検査診断例 ■ 修飾麻疹(検査診断例)



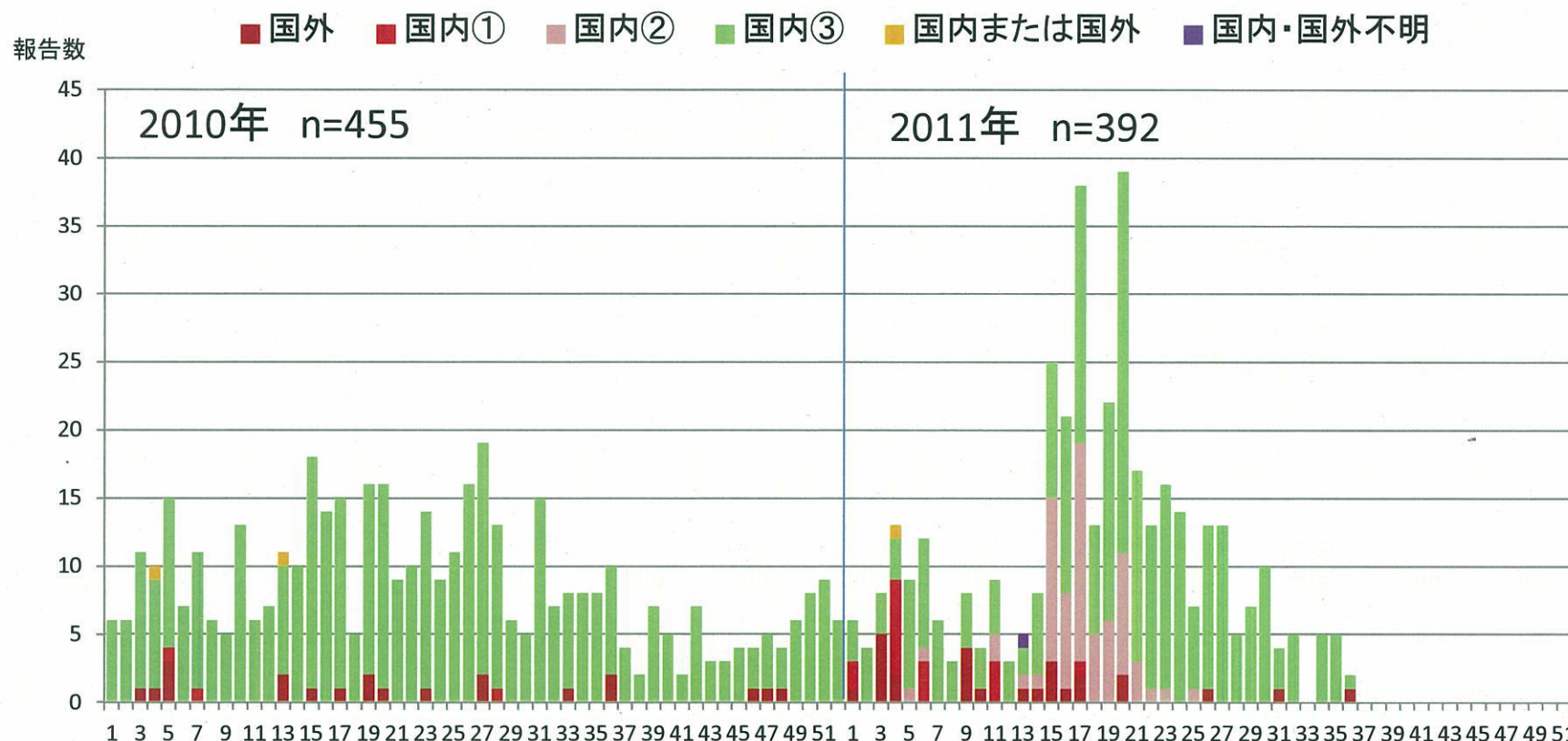
・326例中27例
(8%)にウイルス学
的検査を実施

・278例中123例
(44%)にウイルス
学的検査を実施



感染推定地域別週別麻しん報告数

2010年第1週～2011年第36週（2011年9月14日現在）



国内感染例の内訳

国内①（国外例と疫学的に関連）

国内②（遺伝子型がD5以外）

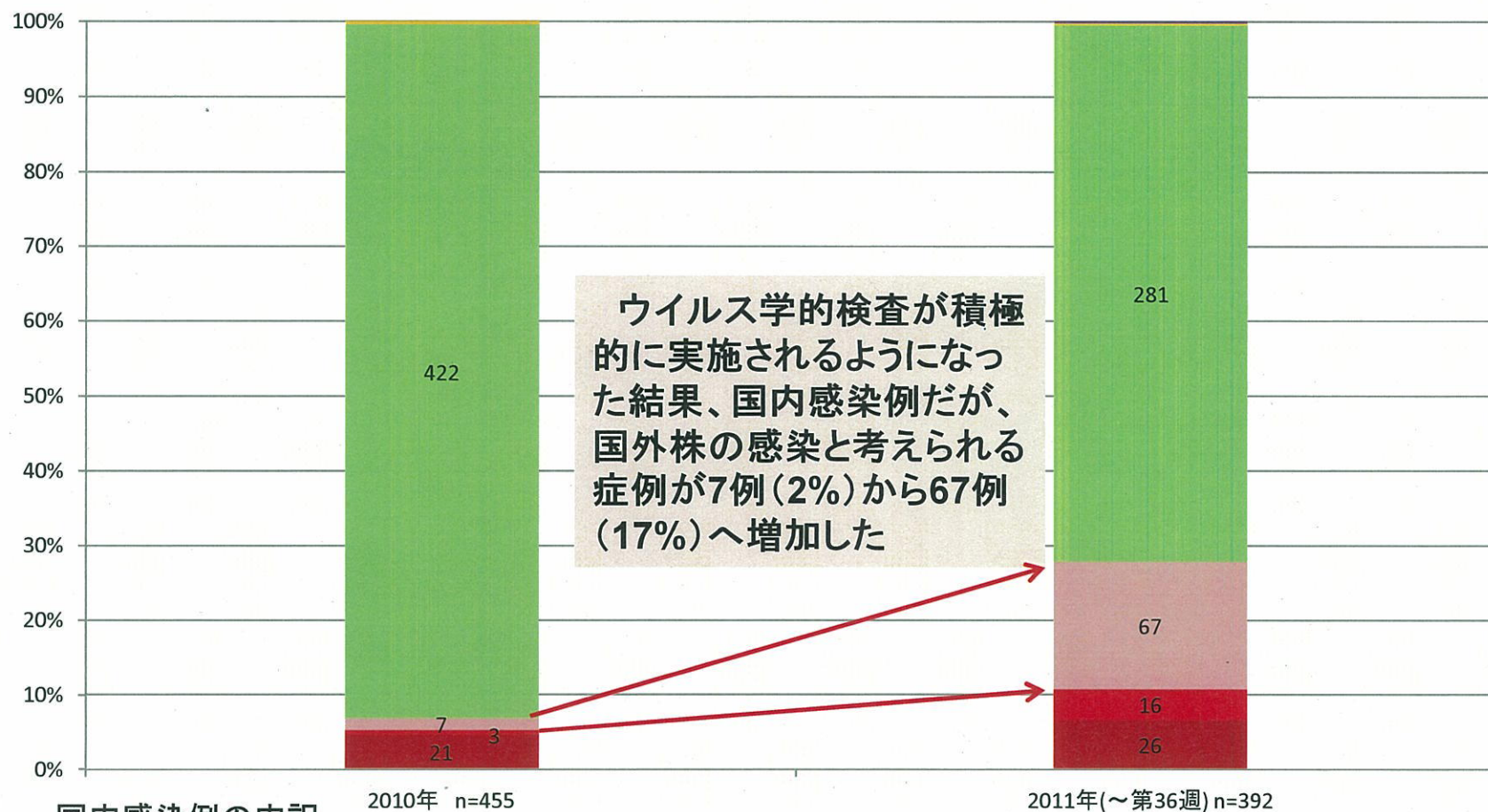
国内③（①、②以外、臨床診断例や遺伝子型不明も含む）



感染推定地域別麻疹報告数割合

2010年～2011年第36週（2011年9月14日現在）

■ 国外 ■ 国内① ■ 国内② ■ 国内③ ■ 国内または国外 ■ 国内・国外不明



国内感染例の内訳

国内①（国外例と疫学的に関連）

国内②（遺伝子型がD5以外）

国内③（①、②以外、臨床診断例や遺伝子型不明も含む）

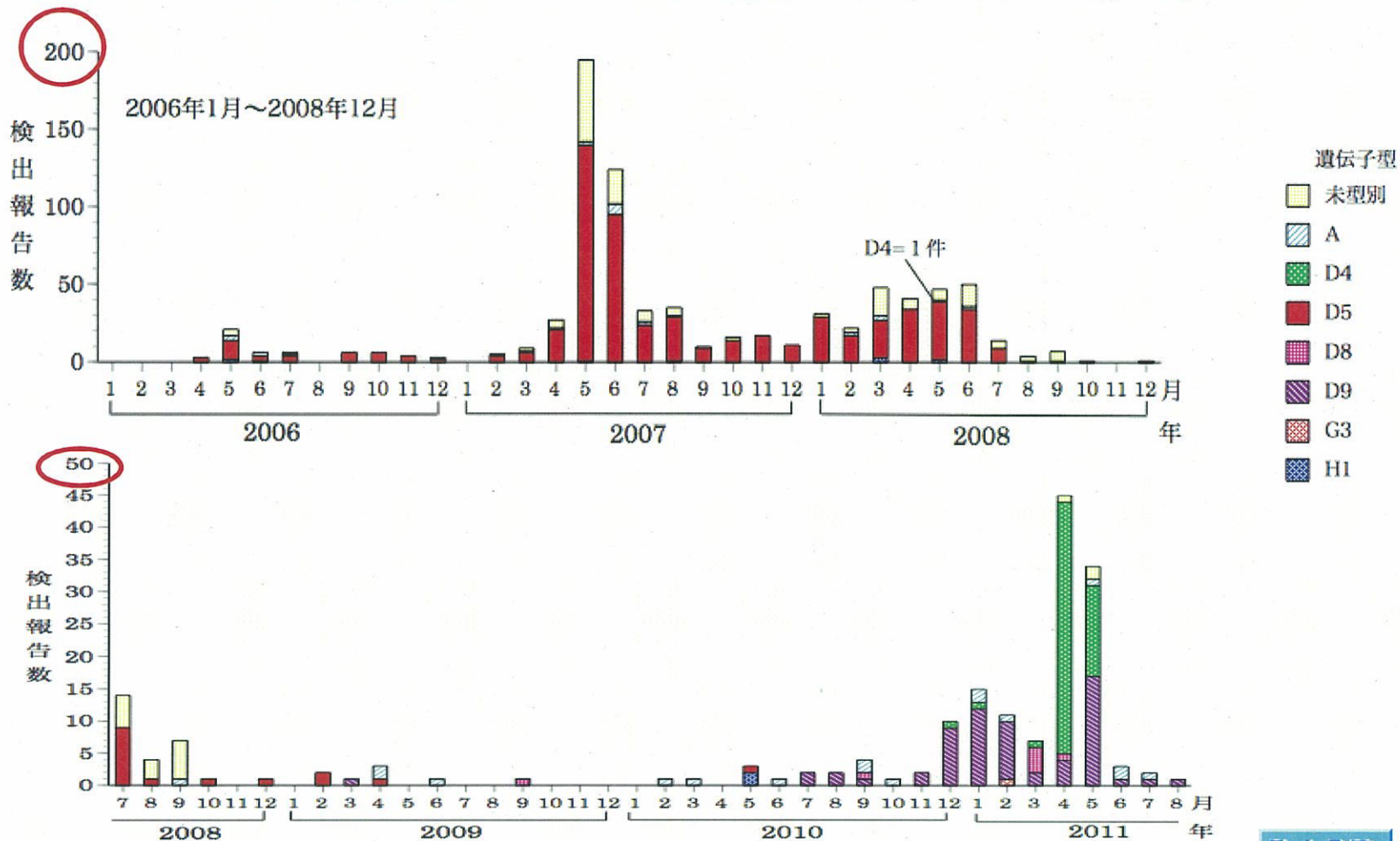


図1. 月別麻疹ウイルス分離・検出報告数、2008年7月～2011年8月

(病原微生物検出情報：2011年9月6日現在報告数)

* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離／検出報告を図に示した

- 2006～2008年に国内例から検出された株のほとんどがD5型であった。
- A型はワクチン株である。
- 2010年11月以降、積極的にウイルス学的検査が行われている傾向。



<http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph/masin1.gif>

IASR

Infectious Agents Surveillance Report



第7回麻しん対策推進会議 (平成23年3月3日)で挙げた今後の課題

- 感受性者対策－2回のワクチン接種率を95%以上にすることに加え、集団発生がおこった際の定期接種対象外(例:来年度は対象となる小学校6年生)への対策
- 確実な麻しんの診断－適切な時期に採取された検体による検査診断
- 届出票の一部を変更し、平成23年4月1日より、発熱・発疹の発症日や検体採取日、抗体価の値などの情報を得られるようにした。



届出票の 変更点

旧届出票

別記様式 5-14-3

麻 し ん 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 印

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検査）した者（死体）の種類
・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体

2 性別	3 診断時の年齢（0歳は月齢）
男 ・ 女	歳（ か月）

病 型		1 1 感染原因・感染経路・感染地域
1) 麻しん（検査診断例） 2) 麻しん（臨床診断例）		①感染原因・感染経路（確定・推定）
② 確定例（検査診断例）		1 飛沫・飛沫核感染（感染源の種類・状況： ）
4 ・発熱 ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血 ・眼脂 ・コプリック斑 ・発疹 ・肺炎 ・中耳炎 ・腸炎 ・クループ ・脳炎 状 ・その他（ ）		2 接触感染（接触した人・物の種類・状況： ）
・分離・同定による病原体の検出		3 その他（ ）
5 検体： 咽頭拭い液・血液・髄液・その他（ ） 遺伝子型：（ ） ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体： 咽頭拭い液・血液・髄液・その他（ ） 遺伝子型：（ ） ・血清IgM抗体の検出 ・ペア血清での抗体の検出 結果： 抗体陽転・抗体価の有意上昇 検査方法： EIA ・ HI ・ NT ・ PA ・ その他（ ） ・その他の検査方法（ ） 検体（ ） 結果（ ） ・臨床決定（ ）		②感染地域（確定・推定） 1 日本国内（ 都道府県 市区町村） 2 国外（ 国 詳細地域 ）
6 初診年月日 平成 年 月 日		③麻しん含有ワクチン接種歴 1 回目 有（ 歳）・無・不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（ S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot番号（ / ・不明）
7 診断（検査（※））年月日 平成 年 月 日		2 回目 有（ 歳）・無・不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（ S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot番号（ / ・不明）
8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日		
9 発病年月日（*） 平成 年 月 日		
10 死亡年月日（※） 平成 年 月 日		

（1、2、4、5、11欄は該当する番号等を○で囲み、3、6から10欄は年齢、年月日を記入すること。）

（※）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。

（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。4、5欄は、該当するものすべてを記載すること。）



届出票の変更点 (つづき)

旧

4	・発熱 ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血 ・眼脂 ・コプリック斑 ・発疹 ・肺炎 ・中耳炎 ・腸炎 ・クループ ・脳炎 ・その他 ()
5	・分離・同定による病原体の検出 検体: 咽頭拭い液・血液・髄液・その他 () 遺伝子型: () ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体: 咽頭拭い液・血液・髄液・その他 () 遺伝子型: () ・血清IgM抗体の検出 ・ペア血清での抗体の検出 結果: 抗体陽転・抗体価の有意上昇 検査方法: EIA・HI・NT・PA・その他 () ・その他の検査方法 () 検体 () 結果 () ・臨床決定 ()

新

4	・発熱 (月 日出現) ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血 ・ 眼脂 ・コプリック斑 ・発疹 (月 日出現) ・肺炎 ・ 中耳炎 ・腸炎 ・クループ 脳炎 (急性脳炎の届出 もお願いします) ・その他 ()
5	陰性結果を含め実施したもの全て記載して下さい。 (ア) 分離・同定による病原体の検出 検体: 咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他 () 検体採取日 (月 日) 結果 (陽性・陰性) 遺伝子型: () (イ) 検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体: 咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他 () 検体採取日 (月 日) 結果 (陽性・陰性) 遺伝子型: () (ウ) 血清IgM抗体の検出 検体採取日 (月 日) 結果 (陽性・陰性・判定保留) 抗体価: () (エ) ペア血清での抗体の検出 検体採取日 (1回目 月 日 2回目 月 日) 抗体価 (1回目 2回目) 結果: 抗体陽転・抗体価の有意上昇 検査方法: EIA・HI・NT・PA・その他 () (オ) その他の検査方法 () 検体 () 検体採取日 (月 日) 結果 () (カ) 臨床決定 ()



届出票の変更点 (つづき)

旧

1 1 感染原因・感染経路・感染地域		
①感染原因・感染経路 (確定・推定)		
1 飛沫・飛沫核感染	感染源の種類・状況:	
()		
2 接触感染	接触した人・物の種類・状況:	
()		
3 その他 (	()	
②感染地域 (確定 ・ 推定)		
1 日本国内 (	都道府県	市区町村)
2 国外 (	国	
詳細地域		()

新

1 1 感染原因・感染経路・感染地域		
①感染原因・感染経路 (確定・推定)		
1 飛沫・飛沫核感染	(感染源となった麻疹患者・状況:	
()		
2 接触感染	(感染源となった麻疹患者・物の種類・状況:	
()		
3 その他 (	()	
②感染地域 (確定 ・ 推定)		
1 日本国内 (	都道府県	市区町村)
2 国外 (	国	
詳細地域		()
渡航期間		()



ウイルス学的検査が実施された症例における 発熱日、発疹日、検体採取日の検討

ウイルス学的検査実施例 n=136

発熱/発疹の発症日の記載あり n=96 (96/136=71%)
(両方: 82、発熱だけ4、発疹だけ10)

発疹発症日の記載ありの92例中、
検体採取日の記載あり n=36 (36/92=86%) → 結果記載あり31例

陽性n=17
発疹から採取日
の日数
平均 5.4日
(SD±2.5)

陰性n=14
発疹から採取日
の日数
平均 2.3日
(SD±1.4)

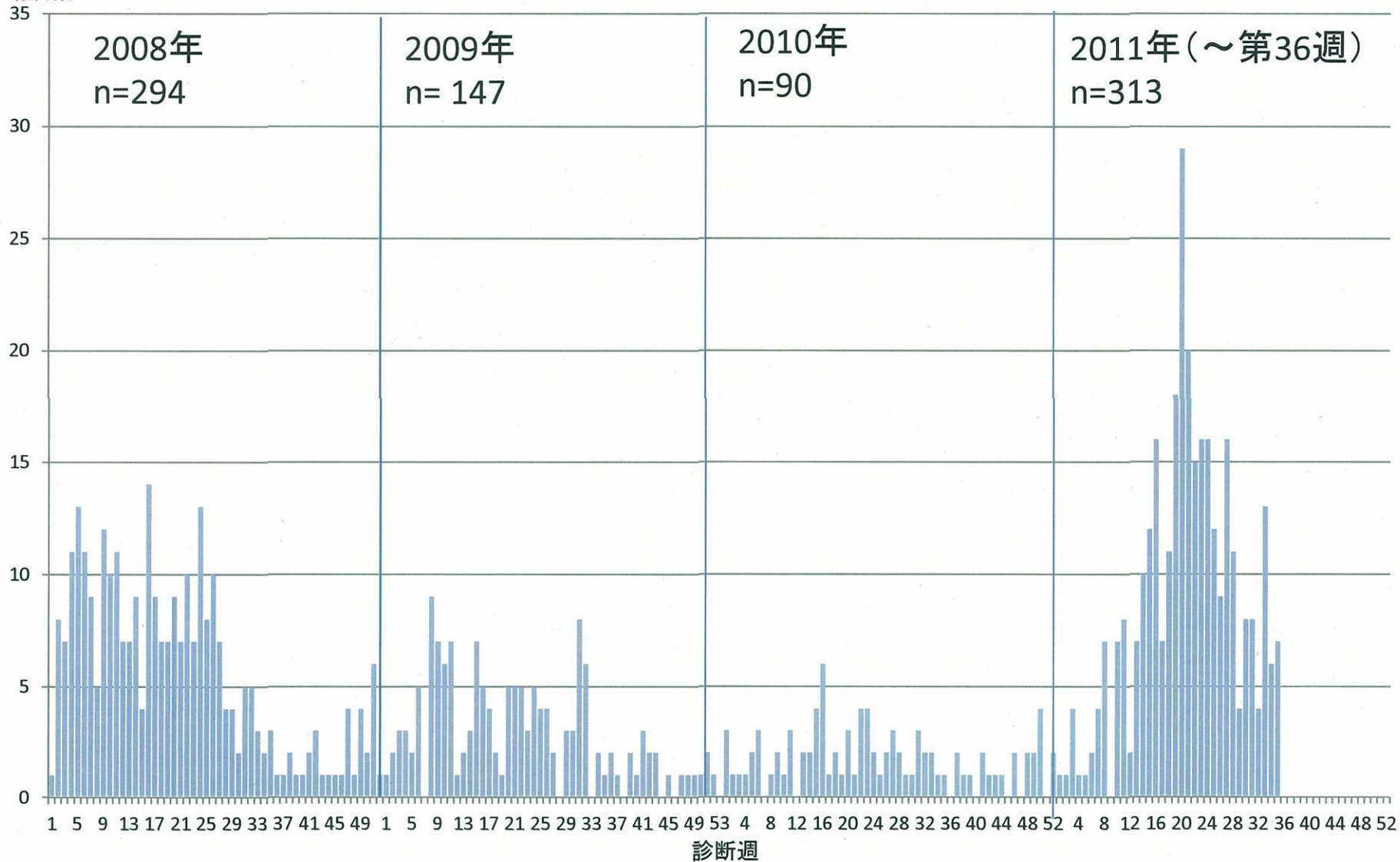


風しんの発生状況



週別風しん報告数の推移 2008～2011

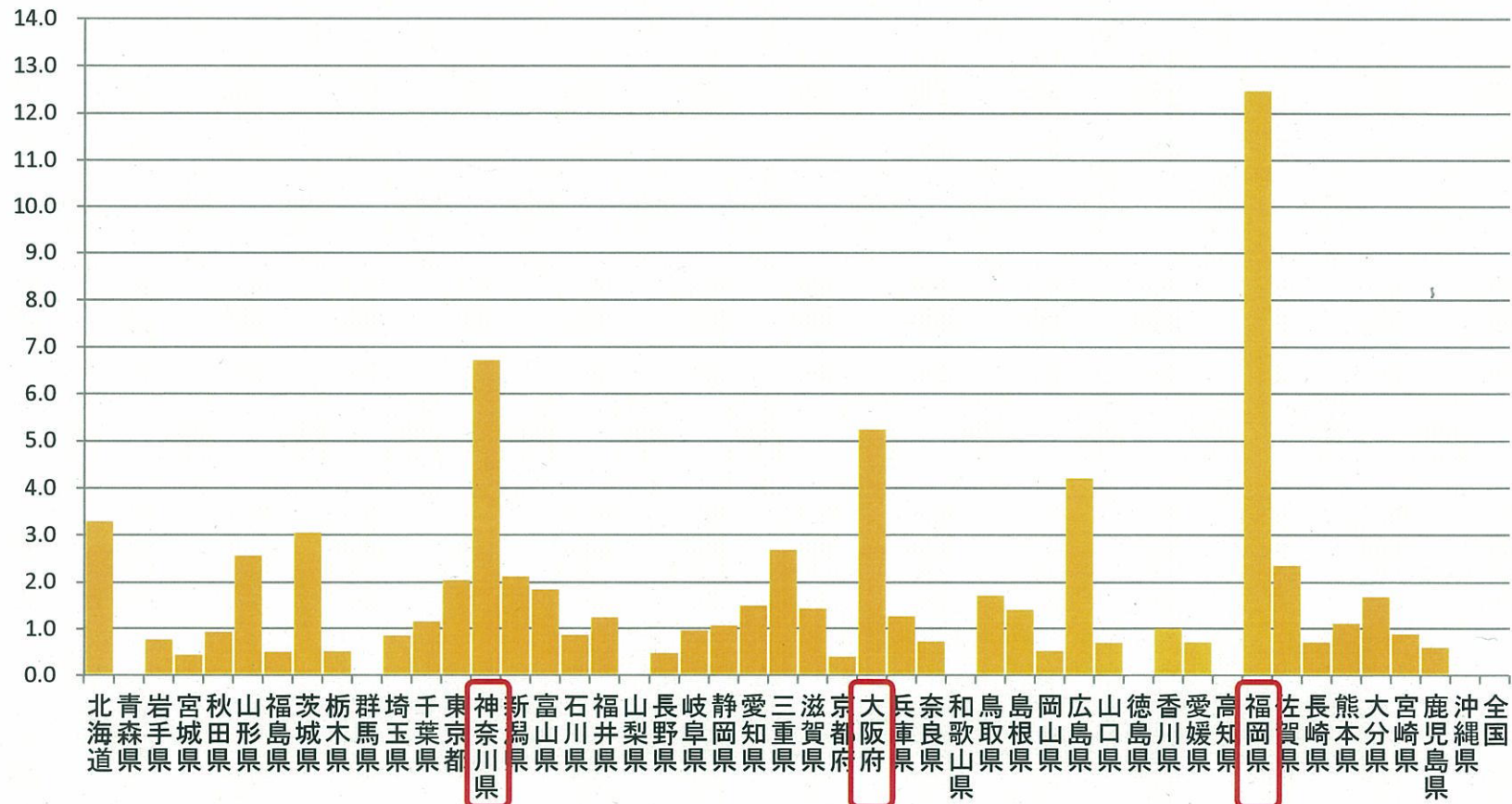
報告数





都道府県別人口百万対風しん報告数

2011年第1週～36週 (n=313)



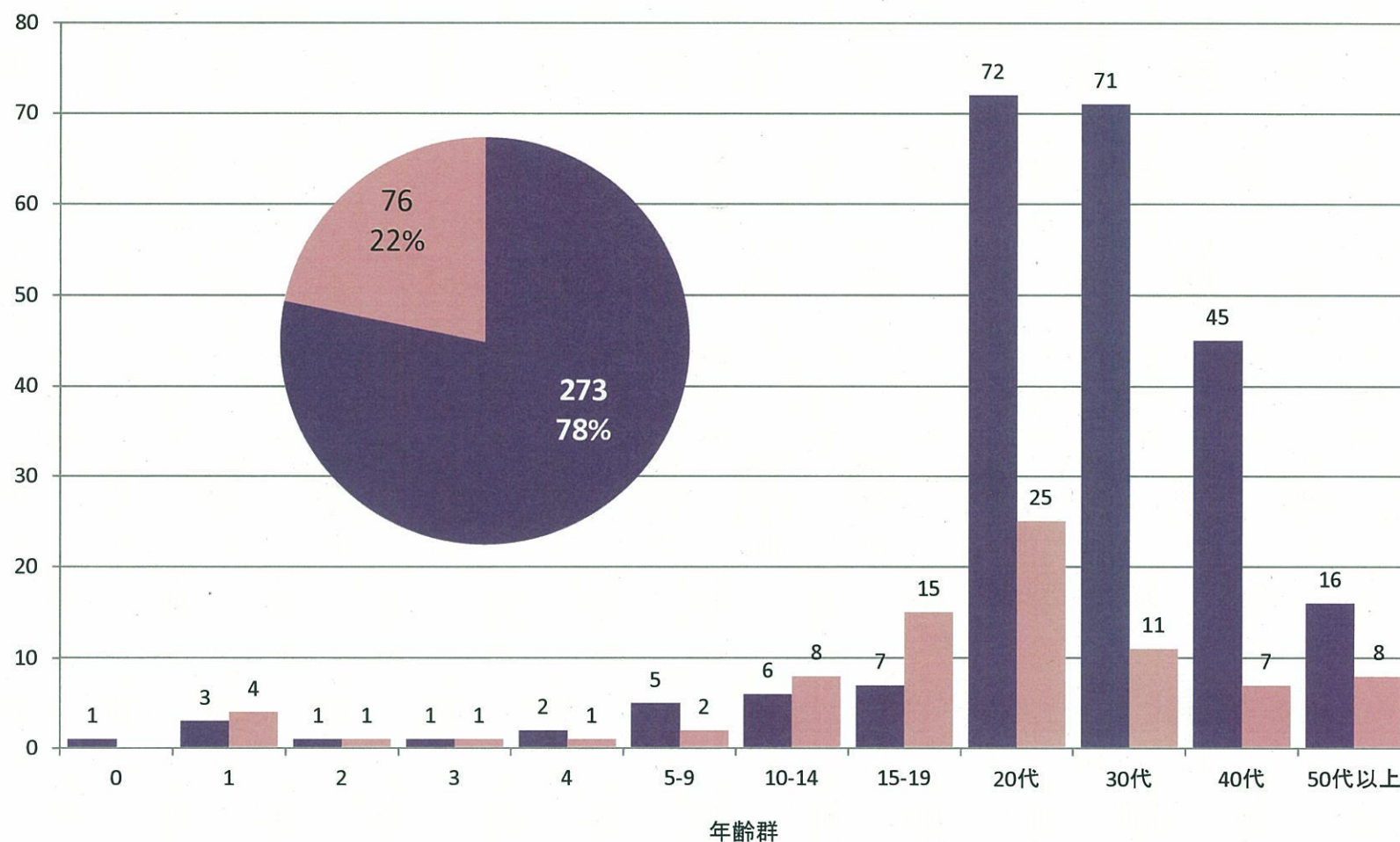
感染症発生動向調査 2011 年 9 月 14 日現在



男女別年齢群別風しん報告数 2011年第1週～36週 (n=313)

報告数

■ 男性 ■ 女性





まとめと今後の課題

麻疹

- 2011年第36週までの麻疹患者の累積報告数は、392例であり、4月～5月（第15週～第20週）に首都圏を中心に昨年の同時期を上回る報告があった。
- 人口百万人あたりの発生数が1.0を下回る自治体が増加した。
- 社会的な活動性の高い20～30代が報告患者全体の36%を占めている。これまで2回目の接種機会がなかったと思われる成人層への対策が必要と思われる。
- ウイルス学的検査が積極的に実施されるようになった結果、海外渡航歴や、渡航者との接触のない国内感染例において、2010年まで検出されていた「国内株=D5」が1年以上検出されていないことがわかった。（型別された株は全て海外由来型）
- 検査診断についての判断、および届出対象に該当するかの判断基準について整理し運用していく必要性がある。

風疹

- 風疹は2008年以降最多の報告数であり、先天性風疹症候群発生のリスクが高まっている。